

◆日本の抱える課題/今後求められる人材

強い個が必要
Society 5.0 時代に
求められる人材

義務教育では
**「吹きこぼれ層」
は放置**

ロマンの欠如
世の中を変える志がない

超少子化時代
リーダー候補層も超縮小

貧富の拡大
貧しい家庭からリーダー
候補層が出て来づらい

◆提言の方向性

2040年の「豊かさ」を創る「とんがり人材」の育成方策と「とんがり人材」活躍モデルの構築
～国を想い、ロマンに溢れ、ガムシャラに取り組む～

◆提言の主なポイント

①全国展開する仕組みと財源

国立大学附属中学校の活用

②国や社会へ貢献したい志の醸成

地域・企業連携のPBLを通じた郷土愛育成

③理数系を伸ばすプログラム

各**国立大**選りすぐりの講師陣のトップ教育

④ビジネスプロデューサー育成プログラム

「**探求学習**」でのPBL等を通じて実現

⑤とんがり人材の活躍モデル

大学でも企業でもないイノベーション創出

◆具体策

1. 「とんがりスクール」の創設 – 国立大学附属中学校を活用して –

専校(国立大学附属中学)

学科は各学校で科目ごとに習熟レベルに応じた学習

副校(選抜された生徒のみ受講) = G-FEST方式

特定テーマの研究は、全国選抜 & 国立大でサポート

2. 「とんがり財団」の創設

「とんがりスクール」(国立大学附属中学校 + 副校)

専校 (国立大学附属中学校等)

学科は各学校で科目ごとに習熟レベルに応じた学習

各地の小学生から
優秀な人材を選抜



(1) 全科目に秀でた生徒



(2) 特定科目に秀でた生徒

地域・企業と
連携したPBL



社会貢献の志の醸成
+ ビジネスプロデュース力も習得

各附属中学で
とんがり向け教科別
特進クラス設定

(教科ごとの習熟度別のクラス分け)



選抜



副校 (選抜された生徒のみ受講) = G-FEST方式

特定テーマの研究は、全国選抜 & 国立大でサポート

対面・オンライン
双方でのコーチング



ノーベル賞受賞者や 国立大学の生徒以外
各国立大の教授陣 (私立・県立) にも開放



年に数回は集まる
(合宿など)



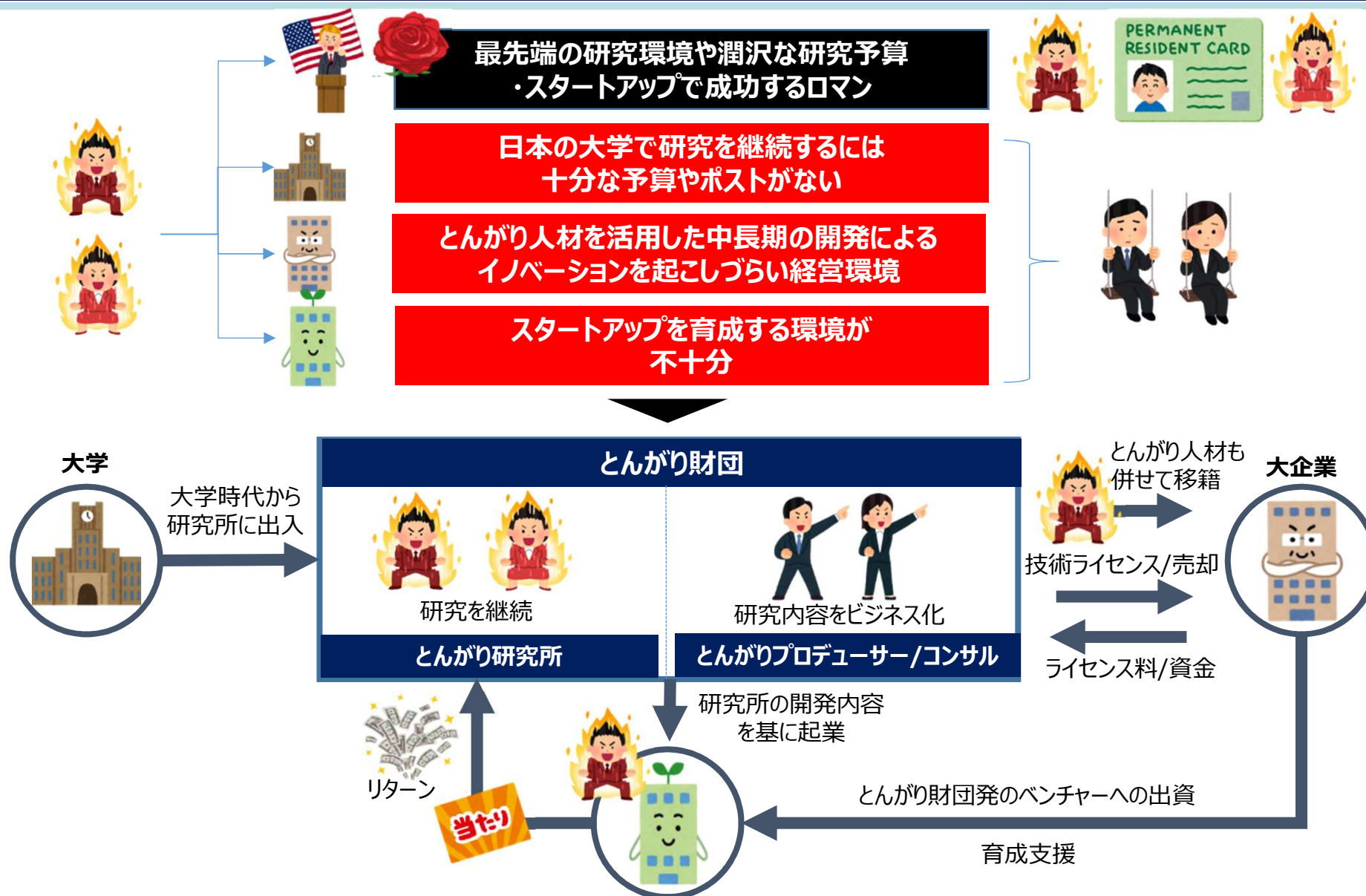
とんがり同士のテーマ別の結びつき・コミュニティ
(※次頁)



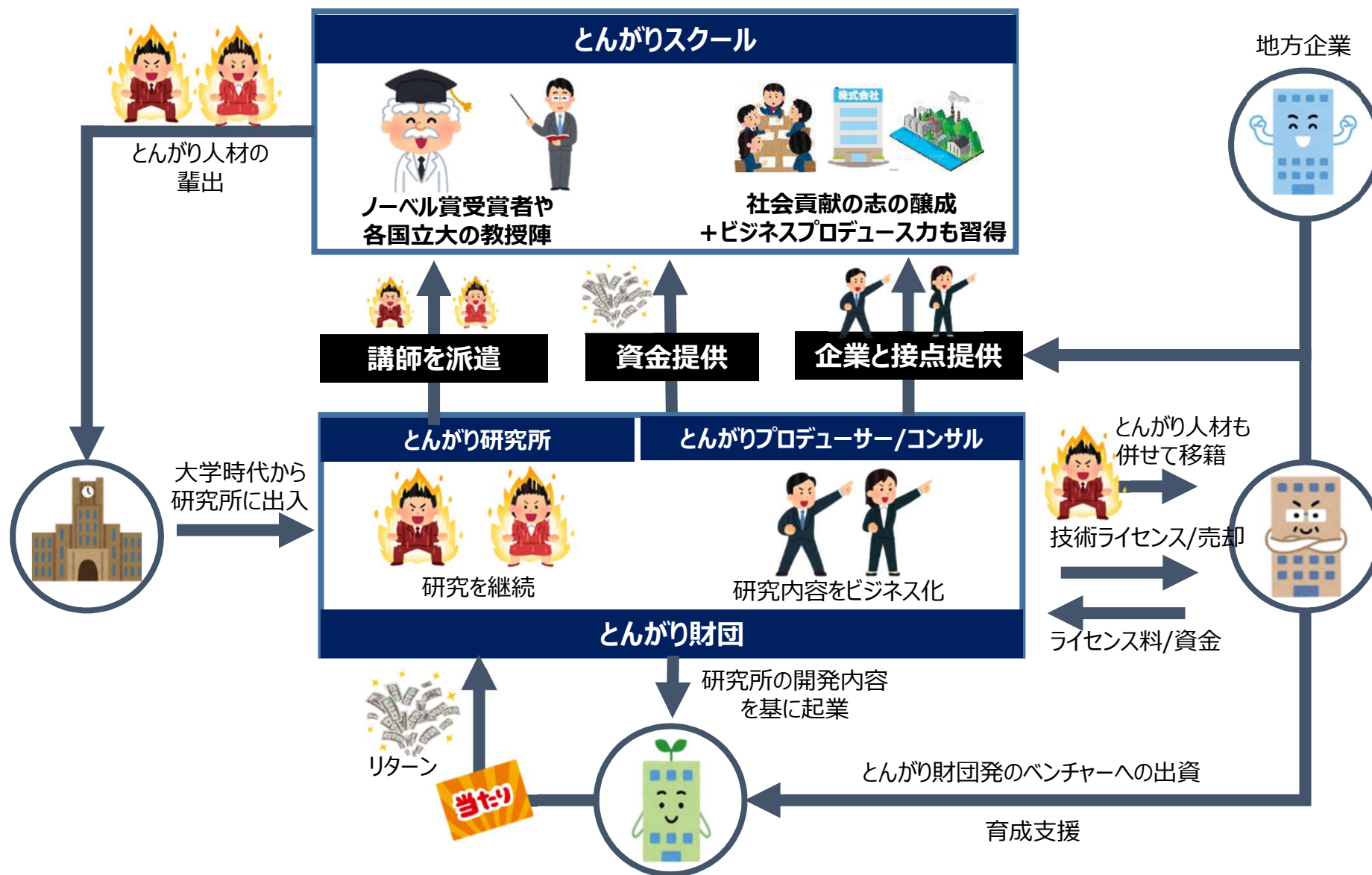
全国のとんがりによるソーシャルネットワーク

附属中の実験的カリキュラム = 附属中の資金で運営

長期的視野に立って、ICTを活用し、学習履歴を取りながら、成長過程も分析。さらなる教育の質の向上につなげる



「とんがり人材」を活用するスキームとしての「とんがり財団」の設立



とんがり人材の育成と活躍で、「日本の力を研ぎ澄まし、世界に誇れる日本を創る」